

作品展望 4

香西照雄

○大野林火 ○一昨年還春を迎え、その記念の

意味もあつて句集『雪華』を刊行した。その

後も句作欲は衰えず、各地へ句作のため旅

行をして多い時は月に二十句ほど作品を

7浜に発表している。好調の年と言えよう

2下 海上に出づ 鰯雲ことごとく 息白く長くわが生確かむかま

夕焼はよその国雪籠る村

梅白を張る九十九里曇りつめ

山ざくろ水平の枝のさきに村

雪嶺より枝飛ぬりきて春の岬

1 鰯雲しや 梅の句に おける把握表現

の 確かさ は、句作の年輪を思ひせる。 梅

白を張るしは 開花直後の凜としたはまやうを

写し得て妙である。 広い海と空の曇色との対

照も動いている。 夕焼の句は高山古川で

詠んぬ句をわが古くか夕焼空かす西方浄土を